

釧路のご当地料理 給食に

姉妹都市 60 周年事業 湯沢、小中学生味わう



湯沢市は 17 日、姉妹都市提携を結ぶ北海道釧路市のご当地料理を味わう「交流給食」を小中学校全 12 校で出した。提携 60 周年記念事業の一環。

この日のメインの副菜は、道内で「ザンギ」と呼ばれる鶏の唐揚げに、甘酸っぱいたれをかけた「ザンタレ」。たれはみりんや酢、ごま油で味を調え、片栗粉でとろみを出した。汁物は郷土料理の石狩鍋をアレンジした「石狩汁」。昆布といりこでだしを取り、湯沢市産のみそと合わせ、辛みなどをアクセントに加えた。具材にはサケやジャガイモなどを使った。

湯沢東小学校(寺田玲子校長、449 人)では、児童たちが興味深げに見入った後、ゆっくりと味わっていた。6 年生の柿崎杏莉さんは「ザンタレは軟らかく、たれとマッチしておいしかった。サケをみそ汁の具で食べるのは初めてだったけれど、味付けと合っていた」と話した。

ザンタレと石狩汁は。湯沢市学校給食センターが釧路市側からレシピの提供を受け、3 カ月ほど試作を重ねて仕上げた。今月 24 日には、みそとバターで味付けし、豚肉や野菜が入った「どさんこ汁」を出す予定。

湯沢市によると、開拓期に釧路市への移住者が多かったことから、1963年10月に姉妹都市提携を結んだ。60周年記念事業として、湯沢市は佐藤一夫市長らの訪問団を今月13～15日に釧路市へ派遣。来年2月には冬の伝統行事「犬っこまつり」に合わせ、釧路市の訪問団を迎えることにしている(小林智彦)



(令和 5 年 10 月 20 日(金) 秋田魁新聞より一部抜粋)